

物の見方を変えて新しい発見と展開を考える試み

山村学園短期大学 子ども学科 講師 酒井 誠

【はじめに】

保育者養成校で造形表現を教えるのをはじめて4年目になります。美術の専門的な知識を学ぶ環境に身を置く学生時代から社会へ出て、小学校、高等学校、大学と様々な環境で造形表現について教えてきました。教えるにつれ、専門的な知識や技法も実際にやってみると楽しいですが、専門的すぎて実際に子ども達に行うのは難しすぎるといった状況に多々直面してきました。ですが、難しい分、プロセスや効果がとても魅力的なものが数多く存在します。それをいかに簡略化し、身近な素材に置き換え、子ども達や保育者はもちろんの事、多くの人々により多く理解して楽しんでもらえるかを考え、研究する日々を送っております。



今回は、木版画の転写技法から着想を得て考案した工作と、それを実際にワークショップとして行った活動をご報告させていただきます。

【今回気になった物について】

新しい工作を考えるにあたり、版画技法について何か使える物はないか考えておりました。焦点を置いた版画ですが、数多くの素材、技法が多く存在する分野になります。そこで今回着目したのが、木版画の版木に下絵を転写する工程でした。本来では、和紙に墨絵を施し、彫る為の版木にのりで貼り込んだ後、それを指で擦りながら和紙の薄皮一枚だけ残し、余分な和紙を取り除く工程になります。薄皮一枚の和紙を残す事で、墨で描いた下絵が見える様にし、彫刻刀で彫る際のガイドとして行う技法ですが、今回はこの擦って紙を剥ぎ取り見える様にするという工程から何か面白い物ができないか考え、素材研究を行いました。



ホログラムシートを貼った白紙



ワークショップ参加者が実際に紙を剥がしている様子

【今回考案した物】

今回用意したものは画像を印刷したコピー用紙(インクジェットプリントは不可)、梱包用透明テープ、水、ホログラムシート、黒画用紙です。

まず、レーザープリンター等で印刷した画像をハサミでカットし、画像が印刷されている面に梱包用透明テープを貼り付けます。この際に注意が必要なのが、画像をインクジェットでプリントし、水を使用すると、水で画像が洗い流されてしまうという点です。ですので、家庭で行う際はコンビニ等で印刷した物でしたら工作が可能です。その後、スプーン等の道具で画面を擦ります。この様にする事でテープと画像がより圧着し、目視でも画像の色がより濃く見えるようになります。圧着後、紙面を裏返しにして、白い紙の面を出します。白い面に水を霧吹き等で染み込ませた後、指の腹で白い部分を擦る事で紙が剥がれていきます。しっかりと剥がす事で、梱包テープについた紙の薄皮一枚分だけが残し、透明なフィルムが出来上がります。この際、印刷において、白の部分はインクの乗っていない箇所になるので、しっかり落としておくことで完全な透明にすることができます。このまま光に照らしても綺麗ですが、屋内でワークショップを行う事を想定し、目に見て光るものを素材研究した結果、ホログラムシートに貼り込む事でより完成度が増す様に感じました。この完成したフィルムは元々の素材が梱包テープですので、物に貼り付く性質を持っています。今回はホログラムシートに貼り付けて、黒の色画用紙で挟んで装飾して完成です。この際に名刺等のカードを入れるビニール等に入れる事でのりを使わず全てまとめる事ができるので、工作としてより一層手軽な物にする事ができます。



透明梱包テープをコピー用紙に貼っている様子



霧吹きで貼り込んだ紙を湿している様子



余分なコピー用紙を剥がしている様子



コピー用紙を剥がし取りフィルム化した様子



フィルムテープをホログラム台紙に貼り付けている様子



完成作品

【この工作を活かしたワークショップについて】

イベント名:アカデミーフェスティバル『やまたん キリトリップを作ろう!!』

会場:アトレマルヒロ(埼玉県川越市)

日時:令和5年5月5日(金・祝)10:00-16:00

上記の日程でワークショップを行いました。子どもの日という事もあり、数多くの子どもの初め、大人まで老若男女の方々がワークショップを体験しました。今回は事前に用意した写真9種類に対して選ぶ形式で工作を行い、写真に関しては山村学園短期大学のキャラクターをはじめ、山村学園短期大学内の風景写真等を使用し、風景を切り取り、キャンパスを旅してもらおうということで、『やまたんキリトリップ』という工作名のもと、工作体験をして頂きました。

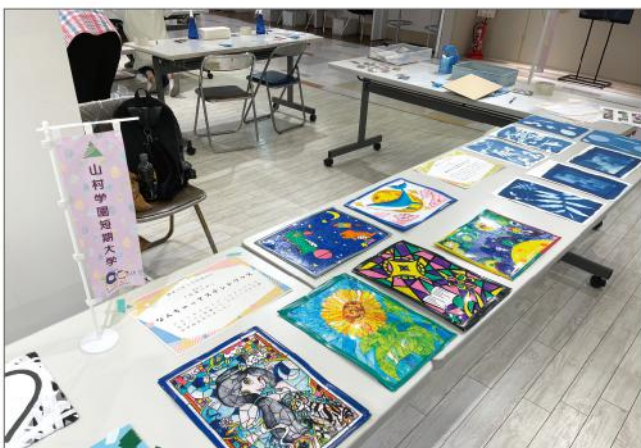
学生達には何度か授業で工作を行ってもらっていましたが、学生達よりも年齢層の低い子ども達はどのポイントに喜びや達成感を感じるのかが気になりましたが、全体的にコピー用紙が剥がれて透明シートになるといった動作を不思議がり、面白がっている子どもたちが多く見受けられました。必要な道具等も保護者の方々に伝えると、簡単に道具の準備が行える事を知り、自宅でもやってみたいと答える方が多数見受けられ、より身近な工作に感じて頂いている印象がありました。今回の制作において、平均的な制作時間は年齢問わず約10分程度でした。



ワークショップ制作風景1



ワークショップ制作風景2



ワークショップ会場風景1



ワークショップ会場風景2

【さいごに】

今回私の行う工作についての考え方、実際に行うプロセスをご紹介させて頂きました。今回のケースは元を辿ると伝統的な木版画の技法ですが、それを現代の家庭にある物で置き換える事で、人々が理解しやすく、親しみやすい工作になる事もあります。身近な物も普段使っている方法で使用するのではなく、敢えて違う視点からその道具の特性を活かすことで、思いもよらない面白い発見も数多くある事でしょう。その、思いもよらない発見で生じる刺激こそ、子ども達の発達に繋がっていくのではないかと感じます。

引き続き、道具の意外性に着目し、より身近で誰もが楽しめる工作を考えていきたいと思えます。



ワークショップ掲示物



やまたんキリトリップ完成品